

(特非) たてやま・海辺の鑑定団

南房総館山沖ノ島の海辺を「守り」「伝える」ための仕組みづくりによる環境保全・再生の普及啓発活動と実践活動

ひろげる助成

3年目

実践

啓発ツールの活用

19,200部

沖ノ島環境保全協力金の取組み

約190万円

今年度計画の達成度

70%

目標達成度

75%

苦勞した点と工夫した点

■苦勞した点

「仕組みづくり」では、関係機関の調整に時間を要してしまい、条例を制定するなど、有効な仕組みには至らなかったが、環境保全協力金の取組みや規則の変更につながった。

■工夫した点

館山湾と沖ノ島の「里海博」を、2月にイオンタウン館山にて開催し、幅広い年齢層の方々約240人が参加した。沖ノ島の課題や取組みを多くの人に共有することができた。



2018年5月アマモの移植会の様子

課題

自然豊かな沖ノ島では、特に夏季の来訪者によるマナーやゴミ問題、一方台風などによるアマモ場の減少、「環境保全・再生」と「活用」の「仕組み作り」が課題となっている。

目標

沖ノ島の自然資源を次世代に継承するため、自然環境の保全と活用の両立を「仕組み」により持続可能な形で実現する。また、沖ノ島の「大切さ」を地域内外で共有する。

活動内容と成果

沖ノ島における環境保全・再生と活用の両立を目標に、持続可能な「仕組みづくり」を地域連携により目指した。

【仕組みづくり】不完全ではあるが動き出し、沖ノ島環境保全協力金の取組み、規則の変更などの効果を上げた。

【普及啓発活動】ビジターセンター設置や、啓発ツールの活用、パークレンジャー活動により、夏季のアンケートにて利用者の満足度が向上した。

【実践活動】アマモ苗を約2,600株、約150㎡移植した。魚によると思われる食害で失われ、再生には至らなかったがノウハウの蓄積と広がりをみせた。



2018年9月琴引浜視察の様子



2018年6月沖ノ島の普及啓発活動の様子

全助成期間の活動を振り返って

沖ノ島の「仕組みづくり」を官民連携「沖ノ島について考える検討会議」を通じて地域連携により目指し、環境保全協力金の取組みや、規則の変更など、不完全ではあるが「仕組み」が動き出したことは大きい。そのことで一般市民や来訪者に向けた、沖ノ島の「大切さ」を伝えるための「普及啓発活動」の効果も上がった。「実践活動」のアマモ場の再生は成功しなかったが、新しいつながりや広がりは、当方にとって大切な財産となった。

活動地域 | 千葉県館山市

〒294-0034 千葉県館山市沼979番地

電話：0470-24-7088

E-mail：info@umikan.jp

http://umikan.jp/



今後の
展望

「仕組み強化」による普及啓発活動の継続や「実践活動の継続」で、「沖ノ島ブランド」構築により経済効果を生み出し、地域振興を目指す。官民協働により効率化と専門性を活かした内容で事業化、SDGsを視野に入れた持続可能な「仕組み」を構築する。当方は協働の中での担い手となることを目指し、認定NPO化とDMC（地域に特化した旅行会社）化を視野に入れ、後進の育成（常勤者の育成）に努め、自立発展につなげる。